

6:14 さて、イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「バプテスマのヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行う力が彼のうちに働いているのだ。」
6:15 ほかの人々は、「彼はエリヤだ」と言い、さらにほかの預言者だ」と言っていた。
6:16 しかし、ヘロデはこれを聞いて言った。「私が首をはねた、あのヨハネがよみがえったのだ。」

6:17 実は、以前このヘロデは、自分がめとった、兄弟ピリポの妻ヘロディアのことで、人を遣わしてヨハネを捕らえ、牢につないでいた。

6:18 これは、ヨハネがヘロデに、「あなたが兄弟の妻を自分のものにするのは、律法にかなっていない」と言い続けたからである。

6:19 ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺したいと思いが、できずにいた。

6:20 それは、ヨハネが正しい聖なる人だと知っていたヘロデが、彼を恐れて保護し、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、喜んで耳を傾けていたからである。

6:21 ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが自分の誕生日に、重臣や千人隊長、ガリラヤのおもだった人たちを招いて、祝宴を設けたときのことであった。

6:22 ヘロディアの娘が入って来て踊りを踊り、ヘロデや列席の人々を喜ばせた。そこで王は少女に、「何でも欲しい物を求めなさい。おまえにあげよう」と言った。

6:23 そして、「おまえが願う物なら、私の国

の半分でも与えよう」と堅く誓った。
6:24 そこで少女は出て行って、母親に言った。「何を願いましょか。」すると母親は言った。「バプテスマのヨハネの首を。」

6:25 少女はすぐに、王のところに急いで行って願った。「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、いただきます。」

6:26 王は非常に心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、少女の願いを退けたくなかった。

6:27 そこで、すぐに護衛兵を遣わして、ヨハネの首を持って来るように命じた。護衛兵は行って、牢の中でヨハネの首をはね、

6:28 その首を盆に載せて持ってきて、少女に渡した。少女はそれを母親に渡した。

6:29 このことを聞いたヨハネの弟子たちは、やって来て遺体を引き取り、墓に納めたのであった。

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

④ この世にあって何を実践しますか？

聖霊様は主の真理を伝える者の味方です。イエス様の宣教のためにも聖霊様は多くのみわざをなさいます。「悪霊を…追い出し…いやした。」とあります。

しかし一方ヘロデは悪霊によって支配されている者で、色欲によって間違った結婚をし、その結果、神の義人を殺してしまいました。聖霊によって支配されるなら、愛、喜び、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制といった素晴らしい恵みがあるのです。

ヘロデはここでは約束を果たしましたが、それはもともと間違った約束であり、決して誠実とは言えないものです。「自分が誓ったこと」も「列席の人たちの手前」も、全てが悪を行う口実になってしまったのです。

